

# 妙高西条農園 おたより

No.141  
5月号  
2023.5.23



4月28日から圃場に入りが入りトラクターによる代掻きを実行しました

田植えを前にして、耕耘の終わった圃場に、用水路から水を取り入れ、代掻きを始めました。代掻きを丁寧に行うことで、圃場の水持ちを良くし、昨年に刈り取った稲わらを地中にすき込み、植えた苗の活着を促進させる効果と、圃場の雑草対策にも関係することから、当農園では、以前から水入れ直後に一回目の代掻きを行い、2〜3日後に更に丁寧に二回の代掻きを実行しています。



トラクターによる代掻き

## 連休後半に田植えを行いました

代掻きの終わった圃場に連休後半の5月6〜7日で田植えを終了する予定でしたが、7日は大雨となったことから、9日に再開して今年の田植えを終了しました。日本の乗用田植機には、圃場の規模により4条〜8条植えまでありますが、当農園では2haと中規模のため5条植えを採用しています。



農園スタッフ全員での田植え

この田植機には、苗を植える機能の他、植付ける箇所にも肥料も播いてくれる機能も付いており、植えた苗の活着に役立っています。両機能とも、目にも止まらない早さで行ってしまいうので、毎年田植え作業を行いながら感心しています。

昔手作業で行っていた時代には、田植えが終了するには6月末までかかっていましたが、田植機を使うことで、2日間で終了してしまいます。今では農機具がなければ、作業も出来ませんが、作業種ごとに専用の機械を使わず、アタッチメントを付け替えればどの作業にも使用出来る機械の開発をお願いしたいと思っています。

因みに田植機では2日間、コンバインで7〜8日間、トラクターで2〜3日間使用するのみで、後は車庫に入っているのが実態です。このように稼働効率が悪く、その他にも米作りをするには、籾播機、芽出し機、畦草刈り機、圃場の除草機、溝切り機、乾燥機、籾摺り機、精米機、保冷庫等の専用機を取り揃えなければなりません。

## 今年も良い苗ができました



軽トラ苗圃機上の苗箱

ハウス内の苗に3回目のエトニを散布しました。田植えの直前には苗丈20cm程に生長し、根もよく張り、最高の苗ができました。



3回目のHB-101散布

このQRコードから代掻き、田植作業等の動画が見られます。



## 役目を終えたビニールハウスを撤去し更地に戻しました



ビニールハウスの取り壊し作業

4月12日から約一ヶ月間苗を育ててきたビニールハウスですが、田植えも終わり役目も終了したので、スタッフ全員で取り壊し、更地に戻しました。部品も多くあり大変でした。



メグスリノキ新緑

発行者  
〒944-0023 新潟県妙高市西条755  
妙高西条農園池田博子  
TEL 0255-72-3497  
Fax 0255-72-2908